



桜美林大学 副学長
一般社団法人中小企業産学官連携センター 代表理事

ほり

きよし

堀 潔さん

1990年に慶應義塾大学大学院博士課程単位取得後、常磐大学短期大学部（現、常磐短期大学）を経て、1994年に桜美林大学に着任。2003年に教授となる。入試広報センター長、リベラルアーツ学群長などの歴任を経て、2021年に副学長に就任。エラスムス大学とロッテルダム応用科学大学（ともにオランダ）で学外研修も行う。日本中小企業学会常任理事、日本経済政策学会理事。2022年、一般社団法人中小企業産学官連携センター（JCARPS）を設立し、代表理事を務める。著書に『日本の中小企業研究2000～2009』（共著、同友館）など。

【写真】安岡 嘉

アカデミズムと現場をつなぐ 中小企業研究のリーダー

【取材・文】原 正紀

株式会社クオリティ・オブ・ライフ代表取締役、特定非営利法人キャリアコンサルティング協議会常務理事・事務局長、一般社団法人留学生支援ネットワーク理事、一般社団法人産学協働人材育成コンソーシアム理事・事務局長、高知大学経営評議会委員・客員教授、中小企業診断士。早稲田大学法学部卒業後、株式会社リクルートを経て起業し、人材事業を産学官において展開。公的委員多数歴任、「インタビューの教科書」(同友館)をはじめ、著書多数。

HARA'S BEFORE

長年にわたり中小企業を研究している堀さんは、注目すべき中小企業をSNSなどで日々、発信もしている。その眼は、企業診断やコンサルティングに大いに役立つだろう。これからの中小企業のあり方について聞いてみたい。

「すごい会社」2,600社以上を SNSで発信

原：マルチにご活躍ですが、まずは現在の活動についてお聞かせください。

堀：本業は大学の先生です。桜美林大学リベラルアーツ学群教授として、経済学プログラムの「産業組織論」、「中小企業論」、「ミクロ経済学」を担当しています。勤続30年目で40歳頃からは大学行政にもかかわり、管理職を務めてきましたが、現在は学務・アドミッション担当副学長を仰せつかっています。

もう一つは中小企業研究者としての顔です。中小企業に関する諸課題に関心を持ち、調査・研究活動を続けています。所属学会である日本中小企業学会と日本経済政策学会では理事になっています。また、学会活動との関連で、昨年一般社団法人中小企業産学官連携センター（JCARPS）を設立し、代表理事になりました。その他、趣味のようなものですが、各メディアで取り上げられている“すごい会社”を毎日、自分の目で選んで、私のSNSやブログなどで読者の皆様にご紹介しています。2011年10月

に開始し、現在まで継続して投稿数は2,600件以上となりました。

原：研究者になるまでの経緯について教えてください。

堀：慶應義塾大学商学部の3年生の時に、佐藤芳雄教授（産業組織論・中小企業論）のゼミに入りました。1年生の時に一度だけ佐藤先生の授業を聴いたことがあり、身近な題材をとりあげたお話で親近感が持てました。ただ、それで「中小企業について勉強しよう」とか「佐藤先生の下で勉強しよう」と思ったわけではなく、それよりも「ゼミに入れてもらえない」ことを恐れ、前年度の志願状況を見て「ここなら入れてもらえそうだ」と、佐藤ゼミに入ることを決めました（笑）。

大学4年生のとき、みんな同じようなスーツを着て会社訪問する、画一的な「就職活動」に違和感を覚えて、大学院への進学を決めたことが「大学の先生」という職を選ぶ大きな転機でした。大学院に進学しても「大学の先生になれるのだろうか」と半信半疑の気持ちでしたが、結果的に職を得ることができて幸運でした。

中小企業研究に携われたので、その関係で企業経営者など多くの人と出会う機会を